

34年度上期外貨予算編成上の問題点

通号-34-2

34. 3. 19

通商局予算課

I 34年度上期外貨予算編成上考慮すべき主要問題

1 鋼工業生産  
鋼塊、鋳製品、石油製品等主要物資の製品在庫調整の

進展に応じ、鋳工業生産は、下期特に11月以降上昇に転じている。この傾向に即応してこれら等製品の価格も上期までの下落傾向より反転し上昇に転じつゝある。34年度上期においても、在庫調整の終了を背景とし、消費の堅調、投資の予想以上の増大(別紙参照)と鋳工業生産は、ひきつゝき上昇するものとみられ、年次間を通じ33年比各10%程度の上昇を示すものとみられる。(別紙参照)

2 原材料在庫

33年度下期外貨予算編成時においては、9月末における高な原材料在庫を背景とし、下期中大幅な原材料の在庫調整が行われるものと考えたが、その後における予想以上の生産上昇( $\frac{33}{34}$ 上 6.1% → 11%)により、